

白山でのコヒオドシの記録について

碓井 徹

早稲田大学生物同好会が1976年に発行した「早稲田生物」NO.18の特集：白山の動植物の「蝶類」の項に、コヒオドシ 2 exs. 三峰～別山 との記録がありますが、筆者はこの蝶類の項に肉して、若干のかかわり合いがありますので詳しく説明します。

早大生物同行会で筆者の友人のSから1975年の春に、その年の夏に50名ほどで白山の動植物の調査を行なうのご資料を送ってほしい、という内容の手紙を受け取り、手許にあったいくつかの文献をコピーを送りました。環境庁を通して採集許可を手に入れたと言うので、どんなチョウが採れるか興味半分、やっかみ半分で記録の発表を待っていたわけです。

11月に同会の会誌（連絡誌）である「いなご」Vol. 18. NO. 3「白山・八丈島合宿特集号」を受け取りました。この中の蝶について記述した文や記録のうち、且にとまったものを原文のまま掲げます。

○……記録されることが期待されていたゴマシジミ、フモマベニヒカゲがっいに記録されなかった原因は、定かではない。ゴマシジミは8月1日、大日岳～水后山の1100mで十数頭採集されているので、もし棲息していれば記録されるはずであったが……。

- コヒオドシ *Aglais urticae* 2 exs. 三峰～別山 1日*
(*筆者注：1975年8月1日)
- ギンボシヒョウモン *Mesoacidalia charlotta*
1 ex. 三峰 1日 (1975年8月1日)
- オオミドリシジミ *Favonius orientalis*
1♂ 室堂 4日 (1975年8月4日)
- サトキマダラヒカゲ *Neope gashkevitchii*
4 ex. 1♀ 原ノ平 29, 30日 (1975年7月29, 30日)
- スジグロシロチョウ *Pieris melete*
1♂ 南竜 3日 (1975年8月3日)

このような文や記録の中で特に気になった。

・コヒオドシは採集か目撃か？

・サトキマダラ、スジグロシロの同定はまちがいないか？

といった点について昆虫班の責任者と思われる男に手紙で質問をしたのですが、返事はありませんでした。

その後、1976年に前出の「早稲田生物」No.18に、「いなご」Vol.18 No.3の白山合宿の報告をまとめた形で「白山の動植物」というのが載ったわけです。

その「蝶類」の概説には「なお調査資料に関して、金沢大学の碓井徹氏から指摘があり、一部訂正を加える。」という一文があり、同じ概説文中に「……、ここを南西限とするコヒオドシが目撃された。……」との文があります。また、目撃および採集記録については「サトキマダラヒカゲ・ヤマキマダラヒカゲの区別、エゾスジグロチョウかスジグロチョウかなどの区別は不可能と思われるので、それらに関してはキマダラヒカゲ・スジグロシロチョウとだけ記すことにします。」との注釈があり、前出の *Pieris* と *Neope* は同定していないことを明言しています。

以上のような経過から1975年7月28日から8月6日まで、総勢51人をもって行なわれた白山の動植物調査でもコヒオドシは目撃され、白山における生息はますます確実になった(?)ように思います。

うわさの *Oeneis hakusanensis* の目撃例2題

碓井 徹

○ 御手洗鉢付近で見た、あの薄茶色のチョウは何だったのだろう
1974年8月1日、前年の秋に次いで2度目の白山。室堂から小桜へ行く途中、御手洗鉢の付近のガレた道から黄色味のある茶色のチョウが飛びました。前年の夏、大雪山であきるほどたくさんダイセツタカネを見ている筆者の目には、そのチョウはタカネヒカゲとしか思いませんでした。ややダイセツより黄色かな、とは思いましたが、このあたりのタカネはこんなものだろうと思えました。当時、筆者は石川県のチョウについて何ひとつ知識はなく、白山にタカネがいる、といううわさが流れていることも、白山にはタカネがいないことも？！知らず純粋な気持ちで *O. hakusanensis* を見としまったわけです。

○ 弥陀ヶ原で足許から飛び立った、あの薄茶色のチョウは何だったのだろう

1975年7月30日、五葉坂を室堂から下って来て弥陀ヶ原から南竜へ行く途中、筆者の足許からタカネヒカゲ(白山亜種)が飛び

出しました。タイセツタカネより、やはり少々黄色っぽいな、という印象でした。その時は男8名女6名のリーダーとして水のな
い千ブリ小屋へ14人分の水を背負って行くため、一斗罐を入れた
特大のキスリングが肩にこい込んでいてタカネヒカゲ(白山亜種)
も採集することはできませんでした。

御手洗鉢と弥陀ヶ原で見たタカネヒカゲ(白山亜種)は、いったい
なんだったのだろうか。

ギフチョウの吸水行動について

嵯峨井 淳郎

ギフチョウの生態について昆虫と自然、月刊むし等の昆虫雑誌
や、各種同好会誌をひもといても今のところ吸水行動についての
報文を見ないのでここに報告する。

時
場所
目撃者
環境

1974年4月15日(月) AM 11:00 前後

金沢市湊地内、筍林の中

嵯峨井淳郎、嵯峨井祐子

筍林の中の未補張の筍運搬用の私道で降雨後のアカ
マツの太木際のぬかるみに3、4頭群がっていた。
なお当日はかなり暑かった。

蛇足ながら、カタクリ、ショウジョウバカマ、タチツボスミレ、
ヤマザクラ、フキノトウに訪花しているギフチョウも目撃した経
験があるので追記しておく。

また、日本国内のギフチョウ産地で、筍(たけのこ)林に発生を
みるのは、金沢市のみであることも記しておく。

宝達山と周辺の蝶類について

嵯峨井 淳郎

能登一の高峰・宝達山(637m)は筆者にとって縁の切れない山
である。はなはだ私的な話になって貴重な頁を削くのは本意では
ないが、宝達山頂には、筆者の先祖が約20代も仕えている平連比
咩神社奥宮がある。同山は昔は、金を産出し脚光をあびた時代も
あるらしいが今はそのおもかげもなく、ただ現在でもあちこら
ら時々螢石をとれるくらいである。

近年そのみちの方針で雑木の豊富な山がバタバタ切り倒
されたり、県警、電々公社、気象台、防衛庁等のマイワロのバラ

ホラアンテナの乱立し、かつこのおもかげもな...状態であるが、頂上付近にはフナ、コナラ、ミスナラ、マンサク等が一部伐採されず残っている。

好天時には、富山港～伏木港、立山連峰、白山、日本海と眺望は極めてよろしく、石川県の隠れた観光地だと自分ではいつも思っている。

秃山には少しすつ、杉、松の植林と緑は回復しているが、10余年前の樹相とはおよそ異なるので、当然昆虫類についてもかつてどのような種が存在したのか知るよしもなく、わずかの文献にたよるしかないが、過去8年間の(1971～1978年)筆者の採集記録をノートしておきたい。

確実な記録のあるウスバシロチョウは、かなり熱心に調査したにもかかわらず(免田側、宝達側)現在まで筆者の記録にはない。

また問題のキフチョウについては現在は生息するような様子もない。カンアオイ属については、フタバアオイ、ウスバサイシンを産するようである。昨年(1978年)川瀬英爾氏よりの情報で、石川県衆業短大、経営農場付近の山林にカンアオイ類があるとのことから2度ばかり押水町へおもむき、調査したが見つからなかった。この2種の調査を会員諸氏に協力を乞うたいである。

オナガアゲハ	2♂	5.7.1972	押水・東側	1♂♀	7.26.1974	東側
フロアゲハ	2♂	5.7.1972	"	1♂	7.26.1974	"
カラスアゲハ	5♂	5.7.1972	"	3♂	7.26.1974	"
ミヤマカラスアゲハ	2♂2♀	5.7.1972	"	2♂	5.31.1975	宝達山頂
アゲハ	1♂	5.7.1972	"			
キアゲハ	2♂	5.7.1972	"			
モンキアゲハ	2♂	7.26.1974	"			

モンシロチョウ	4♂	5.3.1971	押水・東側
モンキチョウ	1♂	5.3.1971	"
スジフロシロチョウ	1♂	5.3.1971	"
ツマキチョウ	1♂	5.3.1971	"

アオハセセリ	1ex.	5.7.1972	押水・東側
--------	------	----------	-------

サカハチチョウ	2♂	5.3.1971	押水・東側
アカタテハ	1ex.	7.26.1974	宝達山頂
スミタカシ	1ex.	5.31.1975	"
ルリタテハ	1ex.	5.12.1973	"
ゴマタラチョウ	2exs.	8.15.1970	押水・河原
コムウサキ	2♂	8.15.1970	"
オオムウサキ			

アサキマタラ	1♂2♀	8.14.1963	宝達山頂
--------	------	-----------	------

コツバメ	1ex. 5.3.1971 押水・東向
トラフシジミ	多数 5.7.1972
	3exs 7.20.1974 宝達山頂
ヘニシジミ	1♂ 5.3.1971 押水・東向
ルリシジミ	
アカシジミ	目撃 6.20.1974 東向～山頂間
ミスイロオナガシジミ	2exs 7.20.1974 宝達山頂
コツバメ	1ex. 5.3.1971.押水・東向

富山県神通川のヒサマツミドリシジミについて

井村 正行

神通川の富山県側においてヒサマツの生息が確認されたことを聞き、このほど現地を見てきたので報告します。

1月10日(1979年)：富山インターより41号線に入って高山方向へ進みます。大沢野より河川に沿って兩岸の崖にウラジロガシが点々と見えはじめ、猪ノ谷まで続きますが、本数はさほど多くないようです。猪ノ谷で41号線と360号線に分かれます。猪ノ谷より360号線に入ると兩岸の崖はかなり急勾配になり、ウラジロガシが見られるようになります。このような環境が県境を過ぎるあたりまで7～8km位続きます。しかし、県境を過ぎ岐阜県に2kmも入ると、ウラジロはほとんど見ることができなくなります。県境より12～3kmまで見ましたが、奥ではウラジロはほとんど見られませんでした。

結論として、たぶん上記、猪ノ谷から県境を1～2km過ぎた間の7～8kmの間にヒサマツは生息するものと思われます。標高は、200～400m位だと思います。この日は仕事をに行った為、ヒサマツを確認することができませんでした。

[追記]

1月21日(1979年)：猪ノ谷より360号線に3kmほど入った所でウラジロガシ1本よりヒサマツの卵28卵 採卵、生息を確認しました。この日は、現地は雪で、積雪も50～60cmで、木にも雪がかなり積って、採卵の条件としては最悪で、探したただ1本の木も1/2位しか見ることができませんでした。

× 個体数が多いのは？

× 寄生卵は1卵も見られず？

翔 No.5 原稿募集中!!

井村 正行氏 様へ

1979年4月10日、金沢市寺津(駒形～犀川ダム間)において、スギタニルリシジミ 388を採集しました。松井氏談では、過去の記録は、市ノ瀬付近、犀川ダムの奥なとだそうであるが、かなり身近な所にも生息しているようです。当日はダム付近にも雪が残る寒い日で、レタが多数のルリシジミに混じり、道路上で吸水してしまいました。ヤヤホロ、あるいは新鮮な個体で、その地コツバノ、ルリシジミ、キフチヨウ、テングチヨウなどもいました。さほど珍しいので、早は来年調査してみたいと思います。なお、採集地は昨年7月、クロシジミを採集した場所より市街へ200m程もどったところである。

〔データ〕

・スギタニルリシジミ , 388 , 10-IV-1979, 金沢市 寺津

ヨコシマミタラセセリ

その1 誘引色

A) ヤマキチヨウ

1978年4月18日、松本市藤井谷において、谷の上より飛来するヤマキチヨウが、道端に落ちていたフジカラーN100の空箱(緑色)に誘われて付近にとまり、しばらくして飛び立つのを数回目撃した。早春であり、あたりは枯草色であるので、唯一つの緑に誘われたのであろうか。幼年の区別は記録がない。

B) ヒメキフチヨウ

1975年、1976年と採集に行くたびに経験したこと。所は入空山である。筆者は採集に出かける時は、いつもブルーのフックバックを背負っている。採集地では地上にころかして採集している。ヒメキフチヨウがこのフックバックの付近を飛ぶ時は、あきらかにフックバックに誘われて飛行道路をかえり、である。あたりはついで又任のササで覆われているので、一ヶ所奇異な色があることを誘われる、かもしれない。

1978年10月7日、8日の両日、加賀市橋立の海岸で蝶を採集した。この時の記録を以下に記す。文中、(目)は目撃、(採)は採集を表し、[M]は松井、[K]は松本の記録であることを表す。なお、8日は入場券氏も同行し若干の蝶を採集された。

セセリチョウ科

1. ヤバネセセリ
♂/♀: 1♂1♀(採)[K], ♀/♀: 1♂(採), 1♀(目)[K],
2♂♂1♀(採)[M], 入場券氏はススキ?(刈られた根元の部分しかない)に産卵された卵を採集。
2. イナモンジセセリ
♂/♀: 1♀(採)[K], ♀/♀: 2♀♀(目)[M], 1♂(目)[K]
3. オオヤバネセセリ
♂/♀: 1♀(採)[K]

アゲハチョウ科

4. アゲハ
♂/♀: 終令幼虫 1ex(目)[K] カラスサンショウの葉上。
♀/♀: 3♀♀(目)[K]
5. モンキアゲハ
♂/♀: 3♀♀(目)[K]

シロチョウ科

6. モンシロチョウ
♂/♀: 1♂(採)[K]
7. スジグロチョウ
♂/♀: 2♂♂(採)[K]
8. スジボソヤマキチョウ
♂/♀: 1♂(採), 1♀(目)[M], 1♀(採), 2♂♂(目)[K]
9. モンキチョウ
♂/♀: 1♀(採) 白色型 [K]
10. キチョウ
♂/♀: 1♂(採)[K]

シジミチョウ科 ウラギンシジミ科

11. ウラナミシジミ
♂/♀: 2♂♂(採)[K]
12. ヤマトシジミ
♂/♀: 3♂♂1♀(採)[K]
13. ベニシジミ
♂/♀: 数頭目撃 [M]
14. ウラギンシジミ
♂/♀: 1♂(採)[K] ♀/♀: 1♀(採), 2♀♀(目)[M],
1♂2♀(採)[K]

タテハチョウ科

15. キタテハ
♂/♀: 1ex(採), 1ex(目)[M]
16. ヒメアカタテハ
♂/♀: 2♀♀(目)[M]
17. オオウラギンシジミワタテハ
♂/♀: 1♂(目)[M]

なお、10月8日には小松市滝ヶ原に立ち寄り、松本はヤバネセセリ 1ex. を目撃した。

松井 正人

シメノチョウ科

西表の妖精シロオビヒカゲが欲しくて欲しくてたまらなかつたこと、ヒメジャノメが本土のと違って美しく、つい採り過ぎてしまったこと、ウスイロコマはうまぐらくなるとたぐさん路上を飛び回っていたこと、リョウキョウウラナミシメノメが採れなくて残念だったこと、シロオビヒカゲは早起きして朝飯前に行くとは採り易かったことなどを覚えている。

(本): 沖縄本島, (石): 石垣島, (西): 西表島, (与): 与那国島を示す。

種名	個体数	採集地	採集日
○ウスイロコマチョウ	9 exs.	源河川(本)	5/11
	1 ex.	又-ハー(本)	6/11
	1 ex.	バンナ(石)	9/11
○ヒメジャノメ	7 exs.	又-ハー(本)	6/11
	3 exs.	又-ハー(本)	7/11
	4 exs.	祖納(西)	15/11
	6 exs.	カンピラ(西)	16/11
	4 exs.	相納(西)	17/11
	4 exs.	相納(西)	19/11
1 ex.	相納(西)	20/11	
○マサキウラオミシメノメ	7 exs.	バンナ(石)	9/11
	7 exs.	祖納(西)	15/11
	3 exs.	カンピラ(西)	16/11
	2 exs.	相納(西)	17/11
	1 ex.	白浜(西)	19/11
	1 ex.	相納(西)	21/11
	1 ex.	オト岳(石)	23/11
○ヤエヤマウラナミシメノメ	2 exs.	祖納(西)	15/11
	2 exs.	相納(西)	17/11
	1 ex.	相納(西)	21/11
	2 exs.	オト岳(石)	23/11
○シロオビヒカゲ	1 ♂	祖納(西)	17/11
	2 ♀♀	干立(西)	18/11
	1 ♀	祖納(西)	19/11
	1 ♀	白浜(西)	19/11
	2 ♀♀	干立(西)	20/11

1978年11月26日に巨王山の巨王権現付近(富山県西砺波郡)でマメサクラ(キンキ?)より採卵したメスアカミドリシジミ8卵の内、3個体が3月中旬に羽化したので、早い時期の飼育例として報告する。卵は戸外に吊しておいたが、暖冬の為、1月27日に調べた時には、既に2個が孵化して乾燥死してあり、以後昼間のみ暖房の行なわれ、こゝろ室内に移し、若令幼虫にはソメイヨシノの花芽をほぐして与え、以後付近の山で花芽のふくらんでくるマメサクラ(キンキ?)、チヨウジサクラをもとって育て、室内で開かせた後主に花を、一部葉をも与えて飼育した。羽化した3個体の記録を下に記す。尚、8卵は全て孵化したか、残りは不注意で殺してしまった。又、同時に吊してあったジョウサン、ミスイロ、ヒサマツ、オリシマ、アカ、ウラクロ、タイセン、アイノ、ミドリ、オイカの卵で孵化していったものは無かった。

(全21979年)

個体No.	孵化	初脱皮	2脱皮	3脱皮	蛹化	羽化(52x)
1	1月28日	2月9日	2月14日	2月19日	2月26日	3月18日(合)
2	2月11日	2月16日	2月19日	2月23日	3月2日	3月25日(合)
3	2月12日	2月16日	2月21日	2月29日 24	3月5日	3月31日(早)

例会記録

- ・ 4月27日 於野中宛
- ・ 参加者 井村、松井、吉村、野中の各氏
- ・ 内容
 - 1) No.3まで“翔”の編集をやってくれていた松本氏が多忙になられた為、以後の代で作業に当たる。セリあえおNo.4は野中か、No.5は井村から取りもつ。
 - 2) 現在吉村氏の手により進行している県内セフィルス類の記録の目録も出版予定として、石川県産全種の蝶について今までの和見の集大成をしよう!
 - 3) 雑談、特にカミナリ談義がはかばか。スキカミキリの採り方、林の見方 etc. 大変 為になりました。

場所が狭く、所々、た為か、参加者が少なく残念でした。せ、ほり、もっとはまやかにやりたいたいものであか……

目次

- ・白山のゴビオドシの記録について—— 碓井 徹 —— 1
- ・うわさの *Oeneis hakusanensis* の目撃例2題—— 碓井 徹 —— 2
- ・ギフチョウの吸水行動について—— 嵯峨井 淳郎 —— 3
- ・宝達山と周辺の蝶類について—— 嵯峨井 淳郎 —— 3
- ・富山県神通川のヒサマノミドリシジミについて—— 井村 正行 —— 5
- ・金沢市近郊にスキタニルシジミ産す—— 吉村 久貴 —— 6
- ・ヨコシマミタラセセリ 其の1 誘引色—— ? —— 6
- ・加賀市 橋立 10月の蝶—— 松井 正人, 松本和馬 —— 7
- ・1974年度 沖繩採集旅行採集蝶一覽(その3)—— 松井 正人 —— 8
- ・メスマカミドリシジミ飼育記—— 野中 勝 —— 9

編集後記

・割合記録の所に書いた様な事情で、突然起用されましたが、なにしろ不慣れた事として少し分読みにくいものかできよとか、たとえ思います。お許し下さい。

・僕の好きなセフは初夏のシーズン。ゴールデンウィークに近くの山で少し木をたたくとみたら、エゾミドリ、ウスイロオナガ、ウラキン等のユ令幼虫が落ちてきました。となたか石川県でウラジロカシを徹底的にたたくてみませんか？

・いよいよ虫屋が活躍できる季節になりました。皆さん大いに頑張ってください。その成果を“翔”誌上に発表しましょう。

(野中 記)

翔 No. 4

1979年 5月10日 発行

発行： 百万石蝶談会
金沢市三口新町 4-9-34 松井 正人 方

製作： 野中 勝